



## 2012. 02 チャイナ下見キャンプ

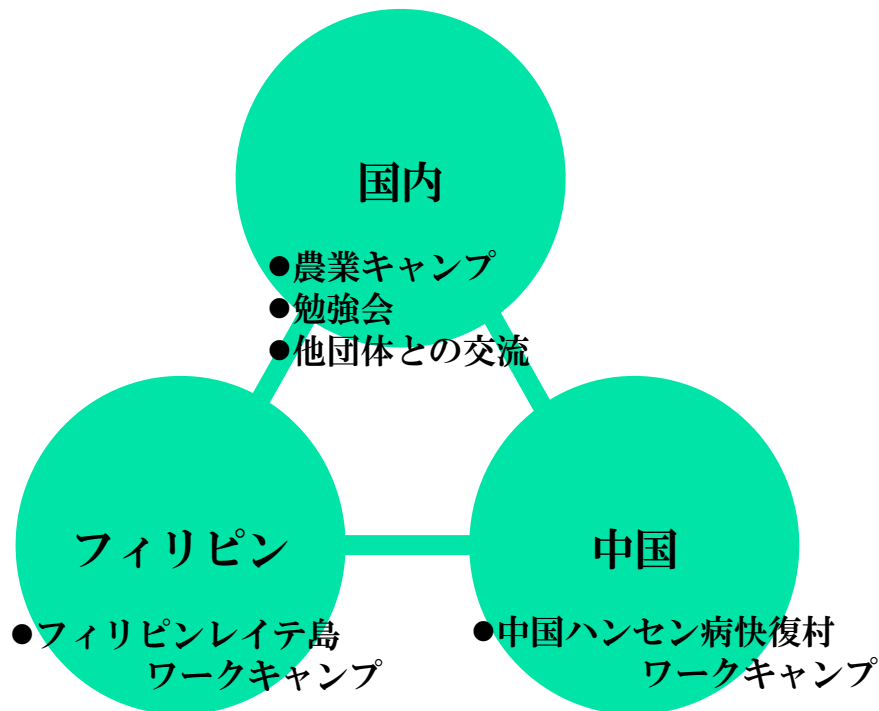
発行：FIWC 九州チャイナキャンプ

## <目次>

FIWC 九州とは	3
ハンセン病とは	4
中国キャンプについて	5
全体の日程	6
キャンプ中の タイムスケジュール、日程	7
早沖村について	8,9
環境調査	10
村人、中国キャンパー紹介	11,12
ワーク	13~16
ハウスワーク	17~20
保健報告	21
会計報告	22
キャンパー紹介	23
感想	24,25



## 1. FIWC 九州について



世界の問題を現地住民と一緒に解決に向けて取り組むこと、国内外を問わず世界の人々の相互理解の促進に努めることの2つを目的とした団体である。2005年春に行われたフィリピンキャンプを始めとして、現在では中国、国内を合わせた三つの地域を中心として活動を展開している。

### 【中国】

### 【フィリピン】

現地 NGO『NorWeLeDePAI』と地方政府の協力のもと、農村部貧困地域にてインフラ整備(水道や橋などの建設)を行っている。

### 【国内】

大分県耶馬溪での農業キャンプ、毎月開催する勉強会(FIWC Party)、他学生団体や NGO 団体とのイベント開催や情報交換などの交流を行っている。

**FIWC九州**  
kyushu

## 2. ハンセン病について

ハンセン病はらい菌という細菌によって引き起こされる感染症の1種である。「らい菌」は、人間の体内に侵入すると主として皮膚及び末梢神経に増殖性炎症を引き起こす。それにより、知覚麻痺、運動神経障害、顔面・四肢等の変形、眼の障害などの症状が現れる。こういった外見からわかる症状により、ハンセン病患者は差別の対象となってきた。しかしらい菌は感染力が弱いため、私たちがらい菌に感染しても通常は発症することは無い。

1980年以降、世界保健機構（WHO）は、ハンセン病蔓延国に向けたグローバルな対策として、多剤併用療法（MDT）を推奨している。MDTにより、らい菌は数日で死滅し、早期に治療すれば後遺症を残さずに完治する。

～日本のハンセン病について～

日本では1930年頃から、ハンセン病患者たちを強制的に隔離していった。その根拠となったのが「らい予防法」であり、この法律は1996年まで存続した。予防法が廃止された後、国がこれによって行った強制収容、終身隔離、患者作業、断種などの人権侵害に対して謝罪を求める気運が高まり、「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟が起こされ、原告である元患者側が勝訴した。しかし予防法が廃止され、国の責任が明らかになった現在でも、隔離前に暮らしていた故郷に帰って生活できる人は少ない。元患者の平均年齢は今や約80歳となり、全国の療養所で暮らす入所者も年々減少している。

～中国のハンセン病について～

中国には、南部を中心に625にも及ぶハンセン病快復村がある。中国では日本の予防法に該当するような法律が存在したわけではなかったが、社会におけるハンセン病の理解も乏しく、また中国において有用な治療法が普及していなかった時代は隔離政策がとり得る唯一の政策だった。現在でもハンセン病患者に対する差別・偏見は根強く残っており、病が治癒しても社会復帰ができず、快復村内で暮らすことを余儀なくされている人は、中国全土で4万人にも上るといわれている。

彼らの生活は地方政府から支給される生活給付金に依存しているが、その額は地方により異なり、少額しか支給されない地域もある。今も倒壊寸前の家屋で、清潔な水を供給する設備やトイレ、電気すらない環境での生活を余儀なくされ、後遺症に苦しみ、孤独に生活している高齢の村人が大勢いる。

### 3. 中国キャンプについて

FIWC 九州の中国キャンプでは、現地 NGO『家-JIA-』の桂林地区の中国人学生と共にハンセン病快復村にて1~3週間程度のキャンプを行う。かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人たちは完治した今もなお、後遺症や周囲の差別から、不便な生活を強いられているため、私たちは村人や中国人学生と共同生活をしながら、次のことを行う。

- ◆ ワーク…トイレ建設や水道設備設置などの村のインフラ整備
- ◆ ハウスワーク…後遺症のため困難となった、食事や洗濯などの日常生活の補助
- ◆ イベント…村人と楽しい時間を共有するためのパーティーの開催

ワークだけでなく、村人との交流をはかり、心から楽しいと感じてもらえる時間をつくることもこれらの活動を行う重要な意義である。

### 4. JIA について

JIA-家-ワークキャンプコーディネーションセンターは 2004 年にある日本人によって広州に設立された学生中心の団体である。

中国にワークキャンプを根付かせること、ワークキャンプの情報収集や共有を行うこと、個々のワークキャンプと世界各地の人や団体との繋がりを形成することなどを目的に活動している。

活動の主体は大学生であり、各地域に委員会が存在している。その中でも私たちは桂林地区の学生と共に活動している。



← 昨年夏の JIA の会議にて

## <日程>

- 2/15 佐賀有明空港→上海浦東空港  
空港近くのホテルに1泊
- 2/16 上海浦東空港→桂林両江国際空港  
空港で中国人キャンパーと落ち合い、桂林のホテルに1泊
- 2/17 桂林市→貴港市  
貴港駅付近のホテルに1泊
- 2/18 貴港→旱冲(ハンチョン)村  
貴港を出発し、蒙圩(マンシー)で食材を調達した後、ハンチョン村に向かう。夕方に到着。

2/19~2/22

### ☆下見キャンプ☆

- 2/23 ハンチョン村→桂林市  
早朝ハンチョン村を出発し、夜に桂林市に到着
- 2/24 桂林地区キャンパーと交流&最終ミーティング
- 2/25 桂林両江国際空港→上海浦東空港  
深夜の便。
- 2/26~2/28  
早朝に上海に到着。上海観光
- 2/29 上海浦東空港→佐賀有明空港



## 交通手段&所要時間

博多駅→佐賀空港	電車	1時間半
佐賀空港→上海浦東空港	飛行機	1時間半
上海浦東空港→桂林空港	飛行機	2時間半
桂林駅→貴港駅	電車	7時間
貴港駅→蒙圩	バス	1時間
蒙圩→ハンチョン村	徒歩	2時間半



## <タイムスケジュール>

下見キャンプ中は日本人3人、中国人9人の計12人での共同生活であったので、キャンプに入る前に下記のようにタイムスケジュールを定めた。(しかし、ずれることも多々あった。) 食事の準備、後片付け等は特に係を決めず、手の空いている人が行った。

## <キャンプ日程>

・ワーク・ハウスワーク・村の環境調査・夏キャンプの形式(人数、流れ等)の項目を日を分けて調査し話し合った。

7:30	起床	2/18	③次のからの予定について
7:50	体操	2/19	①②
8:00	朝食		今まで行ったワークのチェック
	①下見		夏キャンプのワークの下見
12:00	昼食	2/20	③ワークの候補の決定
	昼食兼休憩		①村人訪問
14:30	②下見		②ハウスワークの案出し
			③ハウスワーク案の共有
17:30	夕食	2/21	夏キャンプの参加人数、計画書についての話し合い
			①②
20:00	③MTG	2/21	唐伯と共に早冲村の環境調査 (注意すべき箇所など)
		2/22	free day, ミニパーティー



夕食



ワークの下見

## <旱冲(ハンチョン)村について>

**場所**：広西省壮族自治区貴港桂平市

蒙圩から山道を約2時間半登ったところにある。  
過去には最多で約300人の人が住んでいたらしい。  
山道は幅が狭く凹凸が激しいため、雨の多く降る梅雨の時期は特に危険。

しかし、自然が非常に豊かで近くには美しい泉や大きな滝がある。



**村人**：男性4人、女性1人

政府からの受給金額(1人当たり)：250元/月(日本円で約3000円)

少額のため、薬などの高額なものはなかなか購入することが出来ない。



食材の調達には村人の1人がバイクで市場(蒙圩)にまで買いに行っている。

また、農業や養蜂、養鶏をしている村人もいる。  
後遺症の度合いは人により異なり、村人の1人は自活が困難なため隣に住む村人が食事・洗濯などの世話をしているが、皆明るく精神的には健康である。

## 環境

村には電波が入らず、歩いて30分のところでようやく入る。

またソーラー式の電気(電球)が導入されているが、明かりは十分でなく、天気の悪い日にはすぐ切れてしまうため夜7時位からあたりは真っ暗。

2008年のキャンプによって男女別のトイレが作られたので、トイレには問題はない。

村の近くに病院はなく、重大なケガ・病気の場合はバイクで30~40分の蒙圩にある病院に行く必要がある。

4人の村人の家の前には水道が引かれているが、残り1人は水汲み場まで汲みに行っている。



# 村の平面図



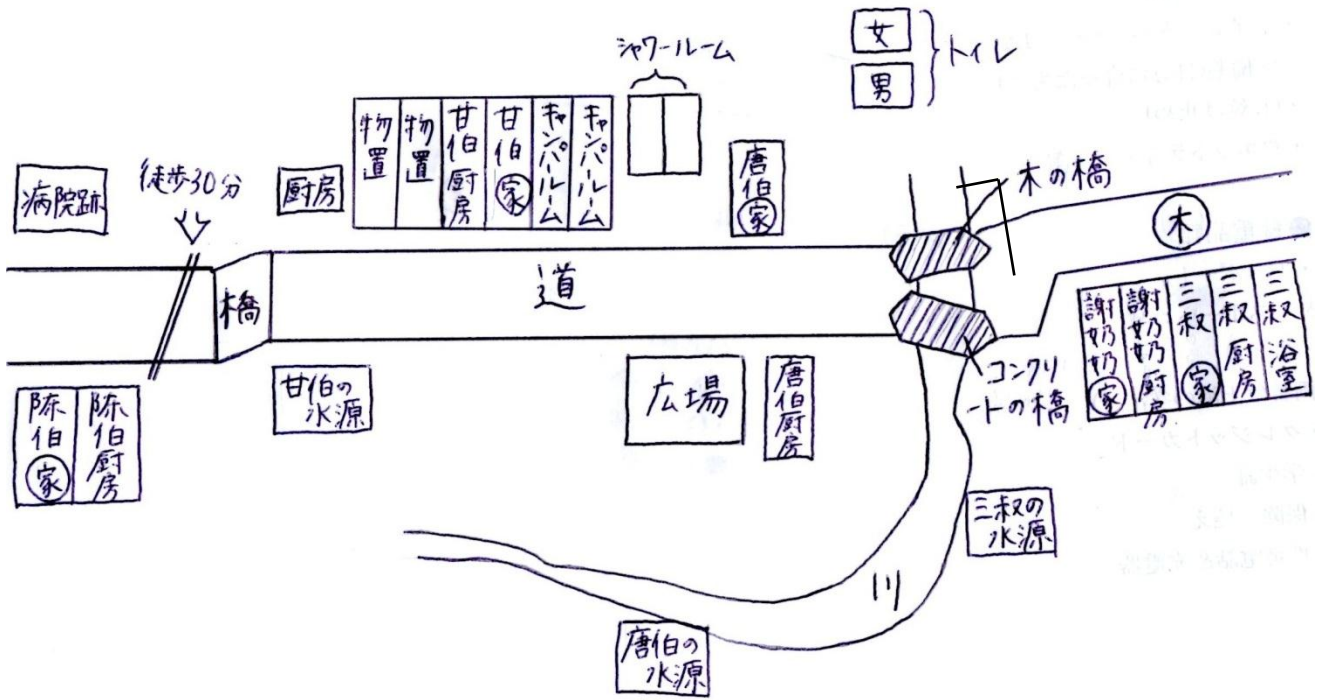
キャンパールーム 外観



トイレ(和式)



木の橋



水汲み場



広場



謝奶奶の家・厨房 外観



## <環境調査>

早沖村は山奥にあるため、「もしも」の事態が起きた場合には対応が遅れる可能性がある。したがって、何よりも「予防」が大事であるという観点から、今回は夏キャンプに向けて事前に知っておくべき注意が必要な場所を調査した。

### ①早沖村へ続く山道



村に向かう山道には写真のような茂みが多い。しかし夏場にはヘビなどの危険な動物が生息していることが多いので注意が必要。

### ②村内の家屋



村の中には今は誰も使用していない長屋が多数存在する。丈夫そうに見えるが、壁の一部分が壊れていたり、屋根が軋んでいることもありするので近づかないこと。

### ③村の周囲



早沖村は細長い形になっており、その周囲は茂みでおおわれている。探検しようと思えばどこへでも入っていけるが、①と同様、ヘビなどの危険な動物が多く潜んでいるため勝手に行ってはいけない。

#### ・その他

その他にも、村に続く道には大きな石があったり、傾斜が急であったりなど、通常の山と同様に注意する必要がある。また、夏は虫、村人の飼育する蜂も多くなるのでこちらにも気をつける。



## <村人紹介>



チェンボウ（陳伯）

シャイなおじいちゃん。村から歩いて 20 分のところに住んでいる。村で一番若く、モーターバイクを乗りこなしている。とても元気で趣味が猟のため、家にいないことも多い。菜園や果物を作っており、夏にはおいしい料理を食べさせてくれるとのこと！



ガンボウ（甘伯）

かっこいいおじいちゃん。お酒とたばこが大好きで、パーティーの時には一緒に歌ってくれる。ガンボウの家の隣にキャンパールームを借りているので、朝ごはんやおやつを分けてくれたり、一緒に遊んだりと交流が多い。他の村人の所に長くいると拗ねてしまうという可愛い一面も持っている。



タンボウ（唐伯）

気さくなおじいちゃん。キャンパーと積極的にコミュニケーションをとってくれる。チャイニーズチェスやトランプが得意で、楽しそうに教えてくれる。とても元気で、モーターバイクを乗りこなしたり、断崖絶壁の山道を通って滝に連れて行ってくれたりする。孫のことが大好き。



サンスー（三叔）

優しいおじいちゃん。キャンパーのことを大切に思っており、名前を呼んでくれる。ハチミツやお酒など様々なものを自分で作っている。医学の知識もあり、村人やキャンパーの体調が悪い時は診察してくれる。ダンスを披露すると真似して踊ってくれる、おちゃめな一面も持っている。



シェーナイナイ (謝奶奶)

可愛いおばあちゃん。最年長だが、ご飯をたくさん食べることができ、まだまだ若い者には負けない。手足の調子が悪いためサンスーに生活を手伝ってもらっている。「リャンニュイ (可愛い娘)」と呼ばれるときや、写真を撮るときにはにっこり笑ってくれる。

### <中国キャンパー紹介>



DADA (达达)

NGO 団体 JIA の桂林地区リーダー。強い信念を持っており、キャンパーの心の支えになっている。彼の持つ広い視点・知識は、ワークやハウスワークを計画するうえでとても役に立った。「チーチーマオ (ドラえもん)」に似ており、みんなの恋バナが大好き。



サンチン (三金)

2012 年夏早冲キャンプのリーダー。早冲に対する愛がとても深い、純粋な女の子。積極的に行動し、村人との交流は誰よりも多い。周りが見えており、キャンパーのお世話も献身的にしてくれるので、みんなから慕われている。ピーナッツが大好物で、口癖は「プシェプシェ (どういたしまして)」。

↓ 桂林キャンパーたち



## <ワーク>

チャイナキャンプでは村人たちが生活をよりしやすくなるように、いくつかのワークを行う。今回はキャンプ中に数人の村人と村の中を歩き、危険だと思う場所や困っていることを教えてもらった。こうして挙げられたワーク案の中でも特に多かったのが通路の修理・舗装である。ハンチョン村に繋がる通路は村人の他にも利用者がおり、その多くはバイクを使う。通路の多くは整備されているとは言えない状態で、雨の日は特に危険。また、過去のワークでコンクリート化された部分についても新たに問題が出てきている。

今回のキャンプで、日本人キャンパーはワーク案の中から優先順位を考え、現地キャンパーに伝えた。しかし本キャンプで実際にどのワークを行うかは、ワークの難易度や費用を考慮してこれから現地のキャンパーたちと話し合っていく予定である。

### [今回案として挙げられた場所]

- ・チェンボウの家につながる坂
- ・コンクリート道の段差の大きな部分
- ・コンクリート道の曲がった部分
- ・チェンボウの家近くのでこぼこ道
- ・サンスーの家の裏側に続く部分の壊れているところ
- ・大きな穴の開いた橋（おそらくかなり前にとりあえず、という感じで作られたもの。危険だけど修理がとても難しい）→図1
- ・水路作り（2か所）（雨が降ったときに雨水が通路に流れ込んでしまうため）
- ・ぬかるみのできやすい道（3か所）→図2
- ・去年修理した橋のチェック

図1



図2





夏キャンプのワーク案（日本人キャンパーが優先順位を付けたもの）

① チェンボウの家につながる坂の修理

チェンボウはバイクでこの坂を上り下りするが、幅が狭く下の方が崩れているため危険。中央に大きな凹みもある（写真の丸のところ）。凹みの修理には半日、崩れている部分の修理には1～2日かかる予定。



② コンクリート道の大きな段差を緩やかにする

過去のワークで作られたコンクリート道の段差が大きい部分。バイクで通る際危険。

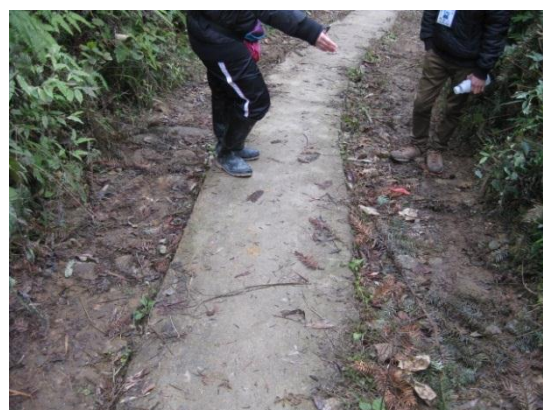
コンクリートまたは石と土を追加し、段差を埋める。



③ コンクリート道の曲がった部分の拡張

カーブの部分が狭いため、滑りやすい雨の日はバイクの運転が特に危険。

ワークではコンクリートまたは石と土を使って道を広げる。



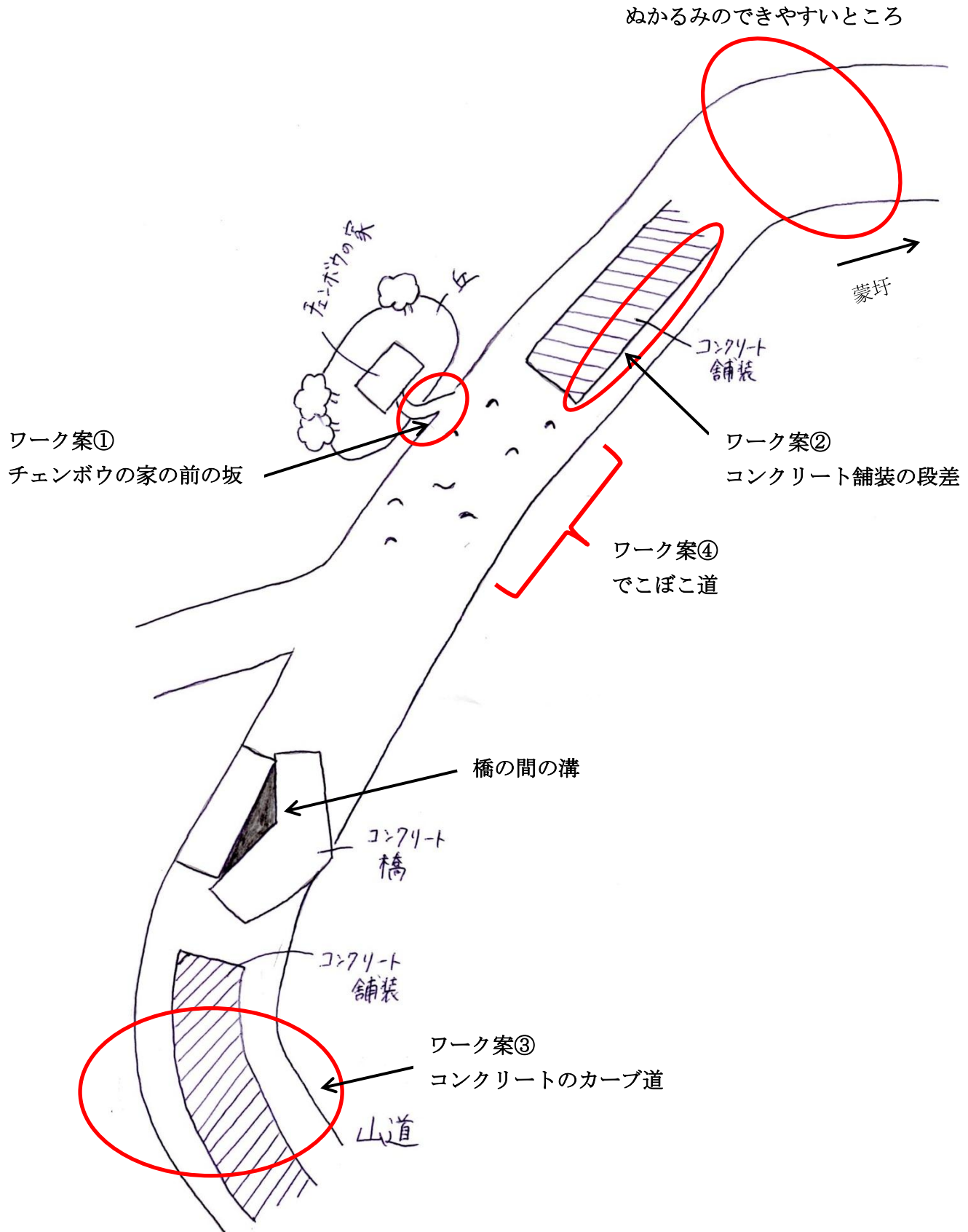
- ④ チェンボウの家近くのでこぼこ道を均す  
コンクリート化されていない道には大きな石も多く、歩きにくい。  
ワークでは大きな石を取り除き土で埋めていく作業を行う。



- ⑤ サンスーの家の一部の修理  
サンスーの家の土台部分が一部壊れている。  
サンスーは家の裏側に行く際よくここを通る。  
ワークでは崩れた部分に合う石を用意し、もともとあったように積み上げていく。約2時間かかる予定。



<平面図>



## <ハウスワーク>

ハウスワークでは、村人の生活をより良いものにするために様々なことをする。例えば、村人と話をしたり掃除をしたりする。ワークのように目に見える形で成果は出ないが、村人と直接触れ合うハウスワークはとても重要な役割を担っている。今回は村人の家を訪問して、体調や夏のキャンプでの要望を聞いた。



### ● チェンボウ

59 歳。1975 年に村に来る。

今は腰痛に悩まされており、薬を服用している。

バイクに乗ったり、猟をしたり、野菜を栽培したりと様々なことをしている。

チェンボウが村に来た当時は、300 人近くが村にいたという話をしてくれた。

### ● ガンボウ

76 歳。

お酒とたばこが好きで、料理が得意。現在薬の服用はしていないが、手に擦り傷のような怪我があり、なかなか治らないらしい。

### ● タンボウ

64 歳。おそらく 1974 年に村に来る。

バイクに乗って市場に買い出しに行っている。とても元気で、厳しい山道を通って私達を滝まで案内してくれた。奥さんが近くに住んでおり、2 人の子供がいる。現在薬の服用はしていない。

### ● サンスー

73 歳。1962 年に村に来る。

三男だからサンスーと呼ばれているそうだ。医学の知識があり、養蜂でお金を稼いでいる。足の状態が悪く、長い距離を移動するときは杖を使用する。リュウマチを患っている。

### ● シェーナイナイ

94 歳。1960 年に村に来る。

2 回結婚しており、息子が 1 人いる。昨年春には息子が彼女に会いに来たそうだ。病気の後遺症で目が悪く、手や足の状態も悪いため一人で生活することはできない。歩くときは杖を使用する。夏になるとリュウマチの症状がひどくなるそうだ。





(ケア)

シェーナイナイの足の傷が悪い状態にあるため、消毒や包帯の交換をする。去年は2日に1回だったケアの頻度を毎日に増やすべきだという提案がある。また、村人が使用する薬の購入を援助すべきだという提案もある。薬はとても高価なため、村人の家計を圧迫しているからだ。ただ、どのように援助するのかは未定のため議論が必要。

(パーティー) →

村人のためにダンスや歌、マジックを披露した。手拍子などで全員が一体となって盛り上がった！ガンボウと一緒に歌ってくれるので、次回はガンボウが知っている曲を練習して、覚えておくと良いかも。



← (日本食)

ハヤシライスやおでんを振る舞った。感想を聞いてみると、日本の味付けは彼らにとって甘いようだ。でも、食べる前から「おいしー！」と言ってくれて(笑) 嬉しかった！



(決定したハウスワーク)

	対象	備考
① 洗濯	希望者	シーツなどはあまり洗われていないようだ。特にシェーナイナイの衣類の洗濯は必須。
② 身体拭き	シェーナイナイ	一人でお風呂に入ることは難しいため、キャンパーが濡れタオルで体を拭く必要がある。

(ハウスワークの候補)

	対象	備考
① 掃除	希望者	身体が不自由な村人は十分に掃除を行うことができないため、部屋が泥やほこりなどで汚れている。
② 家の飾りの交換	全員	これまでのハウスワークで家に装飾がされているが、破れているため飾りなおす必要がある。耐久性が要求される。
③ 写真入れを作る	全員	村人はキャンパーから送られた写真を大事にしているが、入れている袋が破れてしまっている。
④ 水汲みを手伝う	チェンボウ	チェンボウの水源は遠いところにあるため、水を運ぶのは大変な作業になっている。夏は特に水を使うことが予想される。
⑤ 杖をプレゼントする	サンスー シェーナイナイ	彼らが今使っている杖が、体に合っていないように思われる。足が4本ついた杖などが提案されている。
⑥ 手すりをつける	サンスー シェーナイナイ	ナイナイの家からサンスーの家までと、外に出るところの2か所に付けたらいいのではと提案されている。
⑦ 家の中を明るくする	シェーナイナイ	昼間でも家の中が暗いため、明るくする必要がある。ただ、方法が未定のため議論が必要。壁や窓をきれいにするのが提案されている。
⑧ 服を入れる家具	シェーナイナイ	今は服が無造作に袋の中に入れてある。問題点は、1人に家具を作ると、公平を期すために全員に配布しなければならないという点。家具が必要ないであろう村人もいる。

・村人の部屋・シーツ



・杖



・手すり予定場所



## <保健報告>

今回のキャンプでキャンパーが訴えた症状は以下の通り。

	症状	原因	対応
1 日目	喉の乾燥	風邪気味、ホテル内の湿気不足。	部屋に濡れタオルを吊るす。
↓	頭痛	疲れ、食べ物の辛さ。	特になし。
↓	胃痛	ストレス、食べ物の油。	特になし。
7 日目	腹痛	便秘、ストレス、食べ物の辛さ・油。	正露丸の服用。
↓	体のだるさ	ストレス、疲れ、お酒、風邪気味。	昼寝など睡眠の補充。
14 日目			

### (考察)

特に胃痛・腹痛に悩まされるキャンパーが多かった。その主要な原因は、食生活の変化だと思われる。中国での一般的な料理には油が多用され、味付けが辛い物が多いため、胃に負担がかかったようだ。また、村でほとんど毎日飲んでいたお酒（白酒）も原因であるようだ。体調が悪い時に油の多い食べ物、辛い食べ物、お酒を勧められた場合は、素直に体調が悪いことを伝え断るべきだ。

### (備考)

村から一番近い病院はマンシーにあり、バイクで 30 分かかる。  
また水道水はきれいではないため、直接飲むことはできない。

### (反省)

今回は、切り傷ややけどなどの怪我が無かった点が良かった。ただ昼と夜の温度差が大きかったため、キャンパーが風邪気味であり、そのせいで胃痛や腹痛が長引いてしまった点が悪かったと思う。整腸薬は必須で、温度調節のための上着などもあったほうが良いと思った。

## <会計報告（一人当たり）>

[日本での事前の出費]（移動はすべて往復）

国際線航空券（佐賀・上海間）	23,102 円
国内線航空券（上海・桂林間）	12,112 円
博多駅～佐賀駅（JR）	2,160 円
佐賀駅～佐賀空港（バス）	1,000 円
2/15 上海でのホテル代（一泊）	2,008 円
2/26～2/29 上海でのホテル代（三泊）	4,336 円
合計	<b>44,718 円</b>

[中国滞在中の出費]（1 元≒12 円）

キャンプの全体会計 （桂林空港から村までの移動費（往復）、ホテル代、食事代などを含む。）	340 円
桂林でのホテル代（二泊）、食事代	34 円
上海での移動費（タクシー・地下鉄）	46 円
食事代	169 円
合計	<b>589 円</b>

全体の合計 44718 円 + 7068 円（589 円） = **51786 円**

〈備考〉今回は航空券を安く購入できたため、個人的な出費を含めても 6 万円前後に抑えることができた。



## <キャンパー紹介>

### 落石桃子 (ももちゃん)

係：リーダー、記録



今回のキャンプのリーダー、桃ちゃん。

中国滞在中は低年齢化が進行して大変でした。クールな彼女はどこに・・・!?ってことがかなり多かった。でも、結局頼りになるんです。一番きちんとしてて、一番美肌でした。

(by さわ)

### 姫野早和 (さわちゃん)

係：副リーダー、ワークリーダー、会計

おもしろいネタをたくさん提供してくれて、キャンパー同士が交流するきっかけを作ってくれました。イケメンに髪を洗ってもらったり、お兄さんとラブラブしたりと日本人の中で一番モテました(笑) 会計をしたり、ホテルをとったり、大事な面でも支えてくれる頼れる副リーダーです。

(by ぴっちゃん)



### 高橋千秋 (ぴっちゃん)

係：ハウスワークリーダー、保健、写真、エンターテイメント



誰とでも仲良くなれちゃうムードメーカー。でも(過酷な)罰ゲームに本気で凹むなど意外と乙女な一面も。

そんなぴっちゃん、キャンプ中はほぼ毎日頑張って陳伯のところに足を運んでいました。とにかく愛情深くて可愛い子です♪

(by 桃子)



## <感想>

### 【ももこ】

「朝ご飯食べていきなよ。」

下見キャンプ最終日、朝起きて甘伯の家の前を通ると、たくさんのおかずを用意して待っていてくれた。遠慮なく家の中に入り一緒にご飯を食べる。朝からお酒も勧められる。「好吃! (美味しい!)」というのにっこり笑うおじいちゃん。

思い起こせば半年前、あまり深く考えず勢いで参加した中国キャンプ。私にとって初めての中国、初めてのハンセン病快復村だった。その時初めて旱冲村の村人、つまりおじいちゃん・おばあちゃんと出会い、もう一度会いたい、少しでも笑顔が見たい、そう思って今回の下見キャンプに行くことに決めた。

下見キャンプではおじいちゃん・おばあちゃんのために何が必要か、私たちに出来ることは何かを中国人のキャンパーと毎日話し合った。直接話を聞きもした。英語でのコミュニケーションはなかなか大変だったけれど、どうにか通じ合えた。中国人キャンパーは皆本当に親切で優しく、毎日一緒にいるのが楽しくて仕方なかった。



初めは「おじいちゃん・おばあちゃんのために」と思っていた気持ちが中国人キャンパーとの絆につながり、関わっていく人が増える度に私の「中国」に対する見方も以前より大幅に変わってきた。今度夏に行くときにはもっと深く村人と関わることが出来ると思うし、中国人キャンパーとは、会ったことのある人とは更に仲良く、新しい友達も増えていくと思う。私の中で、キャンプに参加する人全員の中で、また何かが変わると思う。そういうキャンプになってほしいと心から思うし、そのキャンプを作るためにはリーダーとして何が出来るか考えていきたい。

### 【さわ】



チャイナキャンプは2回目からが楽しいと事前に聞いていて、実際に行って本当にそうと思いました。まず、村人や現地のキャンパーたちとの再会。自分のことを覚えてくれているのはうれしかったです。コミュニケーションも、今年の夏に比べて今回はよりスムーズになっていたように感じました。もちろん自分も現地のキャンパーも英語が堪能というわけではありません。言葉の足り

ないコミュニケーションを助けていたのは、積み上げてきた絆なのだろうと思いました。村人に関しても同じで、今回は彼らのニーズをより近い立場で聞くことが出来たと思います。

私は今回のキャンプを経験して、人を大事にするとはどういうことだろうと改めて考えました。もし私が村人やキャンパーたちの立場にいたら、あんな風に人を受け入れることができるのだろうか。彼らを見ていると、自分は人を大事にする気持ちがまだまだ足りていないと感じさせられます。そして、成長しなければならないと思います。次回の夏キャンプでは、もっと多くの笑顔が見られるように努力したいです。得るものは人それぞれだけど、チャイナキャンプはたしかに学べるキャンプだと思いました。

### 【びっちゃん】

とても楽しかったです！前回から続いている繋がりを実感できるキャンプでした。言葉は通じません。だけど、確かに通じ合っています。私は彼らを心から信頼しているし、きっと彼らも私を信頼しています。自信を持ってそう言えることが、繋がっているということなのかなと思いました。

前回のキャンプでは全てのことが初めてで、人に頼ってばかりでした。振り返ってみると「もっとできることがあったのに…」と、反省点や後悔がたくさん残りました。今回は二回目だったので、だいぶこのキャンプにも慣れて、それを改善しようと努力することができたと思います。積極的に行動し、自分の中に閉じこもってしまわないように気を付けました。次の課題は、自分が主体となって積極的に提案することです。私にしか持てない視点があり、それを生かさなければもったいないと思います。次にキャンプに参加するときは、私の存在がキャンプに色を添えることができるよう、頑張りたいと思います！





## FIWC 九州

(フレンズ国際ワークキャンプ九州)

Mail: [fiwcq@hotmail.com](mailto:fiwcq@hotmail.com)

Web: <http://fiwckyushu.web.fc2.com/>

Twitter: @fiwckyushu

(中国キャンプ最新情報)

Blog: <http://fiwcqc.exblog.jp/>

## [参加メンバー]

落石桃子 九州大学法学部3年

姫野早和 九州大学農学部2年

高橋千秋 九州大学法学部2年

**FIWC**九州  
kyushu